

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年11月5日

【評価実施概要】

事業所番号	3771300393
法人名	医療法人社団一真会
事業所名	グループホームまごころ
所在地	香川県木田郡三木町井戸533-3 (電話)087-890-3151

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成21年9月15日	評価決定日	平成21年11月5日

【情報提供票より】(21年8月3日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年2月28日
ユニット数	3ユニット 利用定員数計 27人
職員数	19人 常勤16人, 非常勤3人, 常勤換算18人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り 5階建ての2階～4階部分
------	----------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,000～44,000円	その他の経費(月額)	5,000円+実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(家賃1ヵ月分) 無	有りの場合償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,150円			

(4)利用者の概要(8月3日現在)

利用者人数	27名	男性	7名	女性	20名
要介護1	5名	要介護2	10名		
要介護3	3名	要介護4	6名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	73歳	最高	93歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団一真会 川人外科内科
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホームまごころ」は、5階建ての建物の2階～4階に色分けして3ユニットある。法人の医療機関、デイケア、デイサービス、ケアプランセンターなど併設施設が同敷地内にあり、受診や緊急時も迅速に対応でき利用者・家族の安心と信頼につながっている。明るく広々としたホームは換気も行き届き清潔感がある。季節感のある生け花や利用者手づくりの壁画は家庭的な落ち着きがあり心を和ませてくれる。管理者・職員は個別ケアに力を入れ料理教室、外出、外食、お誕生日のお祝いなどに取り組みの熱意がうかがえる。理念を「地域に根付き安心した施設と評価されること」とし、地域に浸透し交流の深まりを期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善課題の、市町村との連携、本人と支えあう関係など管理者を中心に職員全員で話し合い、できるところから改善に取り組みサービスの向上に努めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価はユニット会議、リーダー会議、グループホーム会議等で話し合い職員全員で行っている。職員は、自己評価は日々の介護実践を振り返る機会と前向きに捉えている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議を開催し、参加者からの具体的な意見を運営に反映している。なお、会議の定期的開催と、構成メンバーとして利用者・家族の参加が得られる取り組みを期待したい。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月、家族に利用者の状態や連絡事項などの「たより」を送付している。家族の面会時には話しやすい雰囲気を作り意見や要望を聴いている。玄関には意見箱を設置している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の行事、護摩供養や秋祭りに参加したり、獅子舞がホームの駐車場に来るなど交流が深まっている。傾聴ボランティアグループも定期的(毎週木曜)に来訪している。さらに災害時等に地域住民の協力が得られる取り組みを期待したい。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の方針を基に、ホーム独自の理念「地域に根付き安心した施設と評価されること」をつくっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝申し送り時に、勤務者全員が理念を復唱し日々のケア実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の護摩供養、秋祭り参加や獅子舞がホームの駐車場に來たり、近隣の商店街への買物や散歩時にあいさつを交わし交流している。傾聴ボランティアグループも定期的に(毎週木曜)來訪している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ユニット単位で自己評価を行い、外部評価をリーダ会議、グループホーム会議等で話し合い職員全員で改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、参加者も多くホームの活動も理解され、意見交換の場となり具体的な質問ももらい、貴重な意見をサービス向上に活かしている。利用者・家族は構成メンバーに入っていない。	○	運営推進会議を定期的に行い、有意義な意見交換の場となりサービス向上につながっている。さらに、構成メンバーの中に利用者・家族の参加が得られる取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険の更新、受給の手続き、入居者数の報告、また、問題点の相談や助言など連携づくりに努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の「たより」に、利用者の状態や連絡事項を管理者と職員は当番制で書いて送付している。面会時は健康状態や毎月の預かり金明細を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年2回開催し、家族が意見を出しやすい雰囲気作りに努め意見は職員間で共有し対応している。意見箱を玄関に設置している。ホームと行政機関等の意見、不満、苦情、相談窓口を掲示している。相談窓口の電話は記載していない。	○	家族等の意見は運営に反映している。ホーム以外の行政機関等の相談窓口がより開かれ、利用しやすい窓口となるよう電話番号等の記載が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を重視し、職員の異動は最小限にしている。ホーム内の異動であり、馴染みの関係は保たれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会には参加している。外部研修会に参加後はカンファレンス時に伝達、また、報告書を各ユニットに回覧し職員は共有している。ホーム内の年間研修計画作成までには至っていない。	○	外部研修は段階に応じて受講計画され職員のスキルアップにつながる取り組みを期待したい。ホーム内の年間研修計画を作成し、サービスの質の向上に活かせる取り組みを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県等の研修会で職員との交流の機会はあるが、ネットワークづくりや相互訪問等の交流までには至っていない。同業者以外に実習生や養護学校、中学校の施設見学を受け入れている。	○	同業者のネットワークづくりや相互訪問交流により、さらに、サービス向上につながる取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に利用者・家族にホームを見学してもらい、納得し安心してサービスが利用できるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	玄関に芋つるを植えたり、お荒神さん参り、縫い物、ピアノ、踊り、料理の味付けなど利用者の特技や趣味を発揮してもらえる関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とはゆっくりと会話をしたり、表情やしぐさから希望や意向の把握に努めている。希望や意向は記録に残し、職員間で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の意向を踏まえ職員会議で話し合い意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には6カ月ごとに見直しをしている。状態に応じて毎日の申し送り、介護記録や毎月のカンファレンス等から現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	急変時対応も併設の医療機関と連携が出来ており、利用者・家族の安心につながっている。デイケア利用者との交流や特別浴槽など多機能を活かした柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には併設の医療機関であるが、利用者・家族希望のかかりつけ医への受診を支援している。眼科、歯科の通院介助をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に説明している。重症化した場合は医師・家族・職員とその都度話し合い最善策を職員間で共有している。看取りの申請書を作成しているが現在まで該当者はいない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の生活歴を尊重した言葉かけや対応に努めている。記録等個人情報の取り扱いについても職員間で共有している。面会簿様式については、検討を期待したい。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者のペースに合わせた支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付け、テーブル拭き、食事など職員と一緒に会話を楽しみながらしている。月2回は季節に合わせた料理教室を実施している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望に合わせて、いつでも入浴できるよう支援している。入浴を嫌がる利用者には、部分浴など工夫をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	縫い物、野菜づくり、洗濯物干し、食事の準備、料理など利用者の力量にあわせた支援をしている。一人ひとりの誕生日には、赤飯や手作りケーキを作ってお祝いしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、玄関での外気浴や散歩、ドライブ、外食など利用者の希望に応じた支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、エレベーターの鍵はかけず職員が利用者の状態を把握し見守りを重視したケアに取り組んでいる。帰宅願望の利用者がひとりでエレベーターで降りても、1階のデイケア職員との連携プレーで安全面を配慮し支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防災訓練を実施している。10月には、消防署の協力を得て夜間想定訓練を利用者参加で計画している。地域住民の協力体制も呼びかけている。	○	運営推進会議を通して、災害時の協力を地域の自治会等へ呼びかけ協力体制が築けることを期待したい。特に職員数の少ない夜間想定訓練を計画しているので、利用者を災害から守る体制づくりに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設事業所の栄養士が献立作成し、カロリー等は確保できている。個人記録に摂取量を記載し状態に応じて水分や濃縮栄養飲料等で支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく広々とした共用空間は、換気も行き届き清潔感がある。季節感のある生け花と折り紙や色画用紙を使った手作り作品の壁画は心を和ませている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたテーブル、椅子、テレビ、ピアノの配置や趣味の作品を飾るなど居心地よく過ごせるよう支援している。		